

# 株式会社ゼネット

「ボランティア休職」で社員の見聞を広げる

## 取組の ポイント

- 社長の実体験から導入された制度で、1年以上の海外でのボランティアを経験することで、社員の見聞を広げることを狙って導入
- IT業界は技術革新が激しい世界であるため、復帰後の研修サポートや受入れ体制等のフォローが重要



## 取組の目的・概要

- 社長が JICA の青年海外協力隊に参加した経験を持っており、社員にも海外でのボランティアを経験させることで、見聞を広げることを目的に、設立当初から導入した。
- 少なくとも1年以上、自発的にボランティア活動を継続して行うことを前提とした「ボランティア休職制度」。1年に満たない場合は、別途設けている自己都合で2ヶ月間取得できる休職制度を利用することができる。
- 社労士も含めて規定について検討を行い、休暇期間中の給与補填の実施や年休の取扱い等の見直しを行った。
- 3年前に初めての制度利用者が生まれ、2年3か月ほどアフリカのモザンビークに JICA の青年海外協力隊として赴任している間、制度を利用した。
- ボランティアの内容は国からの要請による。当社から参加したものは「コンピュータ技術」として参加しており、大学の教育システムの検討のサポートを行った。
- 現在2人目の希望者がおり、来年の4月以降、「ボランティア休職制度」を利用する方向で調整している。
- 採用活動の時に海外ボランティアに参加するチャンスがあることは説明しており、海外に興味を持つ応募者が多くなっている。

### 企業概要

[ 設立 ] 1999 年  
 [ 事業内容 ] 情報通信業  
 [ 所在地 ] 東京都豊島区  
 [ 従業員数 ] 155 名(パート・バイト含む)(2017年3月現在)

[ 年次有給休暇の取得率 ] 60%  
 [ 年間休日数 ] 121 日  
 [ URL ] <https://www.zenet-web.co.jp/>

## 取組内容と特徴

### 休職前後のサポートが重要

- ・ JICA の関連団体等から青年海外協力隊の経験者を採用しており、新人研修の中で体験談を発表している。そのような説明を受けて、興味を示す社員がいれば、会社として早い段階でその意向を把握するようにしている。1 年目で、数名から興味がある旨の意思表示がされる。その後、人数は減ってくるが、会社として希望者を把握する流れはできている。
- ・ 社員の 90% 以上が客先に常駐しているため、休暇取得の調整が難しい面もあるが、ボランティア休職を希望する社員には早めの連絡を促し、半年から 1 年くらいかけて仕事の調整等の準備を行うなどの工夫をしながら、取り組んでいる。
- ・ 海外ボランティアへの参加前後の配属については、本社で受け入れる体制があり、研修のサポートや自社製品の開発等に携わるようにしている。特に復帰後は、ボランティア休職前に配属されていたプロジェクトが終わっている可能性が高いため、本社で復帰している。
- ・ 帰って来てから、1 か月程度は住まい探しなども含めて元の生活に戻るためのリハビリ期間を要するため、安心してボランティア休職をとれるようにサポートが重要となる。
- ・ 課題としては、ボランティアに行っている間、技術力は低下するため、復帰後、IT 業界の技術力に追いつく努力が必要となる。まだそれほど技術が身についていない若い社員を海外ボランティアへ行かせると、IT 業界にいられなくなってしまうリスクがあるため、人選にも注意する必要がある。

### 海外展開への足がかりに

- ・ 参加した当人の見聞が広がり、成長につながるというところはもちろんのこと、語学力が向上した社員が増えることは、会社にとってプラスになると考えている。
- ・ 今のところ、自社製品の海外展開や海外での現地法人の設立等の構想はないが、クライアントからの要望で、海外での勤務を要求されることがある。その要望に応える人材として、ボランティア休職を取得した社員を赴任させる可能性がある。今まではこのような要望には応えられなかったが、抵抗なく海外勤務ができる人材が増えてくると、ビジネスの幅も広がると考えている。
- ・ 採用の面からも、海外ボランティアに興味を持っている人が入社する可能性が高まると考えており、グローバル思考を持った人材の確保に役立つ制度だと考えている。

### システム事業部 リーダー 松永 紘さん

### 制度利用者の声

入社前から JICA の事業である青年海外協力隊の活動に興味があり、「ボランティア休職制度」のあるこの会社に入社しました。それからしばらくは日々の忙しさに追われ、なかなか踏み出すことができずにいましたが、30 歳を目前にして行きたいという思いが強くなり応募を決断します。当時いくつかのタスクを抱えていたにもかかわらず、快く送り出してくれた会社には本当に感謝しています。

その後、語学や活動先となる途上国についてなどを学ぶ 70 日間の研修を終え、2015 年 1 月にアフリカのモザンビークへ赴任しました。私自身初めての海外となったモザンビークでの活動はスリにったり入院したりと辛いこともありましたが、人との距離が近くいつでも陽気な彼らと過ごす日々は刺激的で貴重な体験でした。研修も含め 2 年 4 か月間の休職期間がありましたが、帰国後も温かく迎えていただき仕事を続けることができています。

今後はこの経験を会社に還元するとともに、この制度を使う社員が増えるよう啓発をしていきたいです。

